

枯れ木の幹のあいだから、雪に覆われたクマザサの緑と白の葉が顔を出す。那須おろしと呼ばれる冷たい季節風が北西から吹き込む。1月の平均気温は氷点下になる。平均の積雪量は20～30センチである。

冬の間、ツキノワグマ、ヤマネ、アナグマ、タヌキなどの動物が冬眠している。ニホンカモシカ、キツネ、テンなどまだ活動している哺乳類の足跡が、低地の雪景色に十字を描く。カモシカは毛むくじゃらのレイヨウに似ているが、実際にはウシ科に属しており、主に山間部に住んでいる。かつては絶滅の危機に瀕していたが、1955年に成立した保護法により、個体数が回復した。イタチの仲間のテンは、暖かい時期には暗い茶色であるが、冬にはカモフラージュのため鮮やかな黄色に変化する。近年、イノシシが森で目撃されている。この侵入種（近いところから入ってきた種類）であるイノシシが昆虫を探して土を掘り返すことにより土壌が大きく荒らされ、より繊細な植物類の根はダメージを受ける。

2月になると、森にはキツツキが木をつつく音が響き渡り、縄張りを主張し、交尾相手を探す。コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、オオアカゲラの4種のキツツキは、一年を通してこの地域に生息している。使われなくなったキツツキの巣穴は、ヤマネのような小動物の棲みかとなる。

2月中旬から3月中旬、那須の町では椿が咲く。その時期になると雪は解けて、カタクリの紫の花が春の訪れを告げる。